

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6758564号
(P6758564)

(45) 発行日 令和2年9月23日 (2020.9.23)

(24) 登録日 令和2年9月4日 (2020.9.4)

(51) Int.Cl. F 1
A 6 3 F 7/02 (2006.01)
 A 6 3 F 7/02 3 3 4
 A 6 3 F 7/02 3 1 1 C

請求項の数 1 (全 16 頁)

| | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------|-------------------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2016-88304 (P2016-88304) | (73) 特許権者 | 395018239 |
| (22) 出願日 | 平成28年4月26日 (2016.4.26) | | 株式会社高尾 |
| (65) 公開番号 | 特開2017-196045 (P2017-196045A) | | 愛知県名古屋市市中川区中京南通三丁目2番地 |
| (43) 公開日 | 平成29年11月2日 (2017.11.2) | (72) 発明者 | 都築 正幸 |
| 審査請求日 | 平成31年3月12日 (2019.3.12) | | 愛知県名古屋市市中川区中京南通三丁目2番地 株式会社高尾内 |
| | | 審査官 | 尾崎 俊彦 |
| | | (56) 参考文献 | 特開2017-153618 (JP, A) |
| | | | 特開2017-158801 (JP, A) |
| | | | 最終頁に続く |

(54) 【発明の名称】 弾球遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技領域に発射するための遊技球を保持する皿部と、
 遊技球を1個ずつ前記遊技領域に向けて発射するために当該弾球遊技機内に設けられた
 発射装置と、

該発射装置による発射力を遊技者が調整するための発射力調整手段と、
 前記皿部から前記発射装置へと遊技球を誘導するための遊技球通路と、
 前記発射装置により発射されたにも拘らず、発射力不足などが原因で前記遊技領域に到達
 できなかった遊技球であるファール球が流下する通路であって、前記発射装置を経由す
 ることなく前記ファール球を当該弾球遊技機の遊技者へ返却するためのファール球通路と

10

を備えた弾球遊技機において、
 前記ファール球通路に形成され、前記ファール球に係状部材が固定されている場合に、
 該係状部材を引っ掛けるための係止手段と、
 該係止手段よりも、前記ファール球通路において下流位置に形成され、該ファール球通
 路を流下する遊技球の流下速度を前記係止手段の上流位置を流下する遊技球の流下速度よ
 りも減少させる減速手段と、

前記発射装置に設けられ、前記係状部材を切断する切断部と
 を備え、

前記ファール球通路は、該ファール球通路に着脱自在な箇所を備え、該箇所を取り外す

20

ことにより、前記係止手段から前記減速手段までの経路を露出させることが可能となっていることを特徴とする弾球遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技領域に入賞口を備え、発射した遊技球が入賞口に入る（入賞する）と遊技者に賞球が付与される弾球遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

近年、弾球遊技機において、系の一端を固定した遊技球（系付き球）を用いた不正行為が問題となっている。この不正行為は、前記系の他端を左手などに持ち、この遊技球を通常どおりに発射することにより行われる。そしてこの系付き球が入賞口に入って、入賞口内に設けられた球センサに検出されると、系の前記他端を引っ張って、球センサに検出されない位置まで遊技球を引っ張り出し、再び系を緩めてこの遊技球を前記球センサに検出させるということを繰り返すものである。これにより、球センサは遊技球を検出するたび「遊技球が入賞口に入った」と誤認識をし、この不正行為者に賞球を付与してしまう。これ以外にも、遊技領域における遊技球の流れを有利なものにするために系付き球が利用される場合もある。これらの不正行為を総称して系付き球ゴトと呼ぶことにする。

【0003】

特許文献1に記載の弾球遊技機（単に遊技機ともいう）では、系付き球ゴトを防止するために、球送り装置から発射待機位置に遊技球を流入させるための流入口の開口縁において、系を切断するための切断部を備えている。この対策を行なうことで、系が引っ張られるとカッターに接触し、系が切れ、それ以降の系付き球ゴトができなくなる。

【0004】

ところで、発射装置は遊技領域が形成された遊技盤の下方に設置されており、発射力の調整が可能となっている。遊技領域は略円形をしており、発射された遊技球が走行するための通路が遊技領域の左側外周に沿って形成されている構成が一般的である。この構成において、発射力を強くすると遊技球が前記通路から勢いよく発射されて遊技領域の右部に到達し、発射力を弱くすると遊技球が遊技領域の左部に到達する。発射力が弱すぎて遊技領域に到達できなかった遊技球（ファール球という）は、前記通路を逆流する。このファール球が、発射された別の遊技球と衝突したり、発射装置に到達したりして発射の障害となることを防ぐために、前記通路の途中にはファール球を下方へ導く経路の入口が形成されている。発射された遊技球は勢いがあるため、前記入口を飛び越えるが、ファール球は摩擦で減速されたり、他のファール球に衝突したりする等の理由により、前記入口から前記経路（ファール球通路という）に落下し、発射装置に到達することはない。

【0005】

ファール球通路を流下したファール球は、遊技球を貯留する皿に至る。この皿は、遊技機の下方向へ排出する賞球などを一旦貯める皿や、発射される遊技球が待機する皿である。いずれの皿に至るかは、前枠の構造により異なる。ファール球が「一旦貯める皿」に至る前枠は、「待機する皿」も備えており、前者を下皿、後者を上皿と呼ぶことが多い。ファール球が「待機する皿」に至る前枠は、下皿を備えないものが多く、こうした前枠を有する弾球遊技機において、下方へ排出される遊技球は、上皿から直接排出される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特開2012-170615号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

このファール球通路を悪用して次のような系付き玉ゴトが行なわれることがある。系の

10

20

30

40

50

両端に遊技球を固定し、一方の遊技球のみを強めに発射して遊技領域に到達させ、他方の遊技球を弱めに発射してファール球にする。すると、ファール球になった方の糸付き球が皿に出てくる。前述したようにファール球は発射装置に到達しないので、糸は遊技領域、ファール球通路を経て、皿に出てくることになり、発射装置を経由しない。従って、皿に出てきた糸付き球（ファール球）を引いても、糸は前記流入口の開口縁を通過していないので、切断部によって切られることはない。これにより、皿に出てきた糸または糸付き球を引くと、前記した不正行為が可能となってしまう。

本願発明は、係る課題に鑑みなされたもので、糸付き玉とファール球通路を利用した不正行為を防止できる弾球遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するためになされた請求項1に記載の本発明は、遊技領域に発射するための遊技球を保持する皿部と、遊技球を1個ずつ前記遊技領域に向けて発射するために当該弾球遊技機内に設けられた発射装置と、該発射装置による発射力を遊技者が調整するための発射力調整手段と、前記皿部から前記発射装置へと遊技球を誘導するための遊技球通路と、前記発射装置により発射されたにも拘らず、発射力不足などが原因で前記遊技領域に到達できなかった遊技球であるファール球が流下する通路であって、前記発射装置を経由することなく前記ファール球を当該弾球遊技機の遊技者へ返却するためのファール球通路とを備えた弾球遊技機において、前記ファール球通路に形成され、前記ファール球に糸状部材が固定されている場合に、該糸状部材を引っ掛けるための係止手段と、該係止手段よりも、前記ファール球通路において下流位置に形成され、該ファール球通路を流下する遊技球の流下速度を前記係止手段の上流位置を流下する遊技球の流下速度よりも減少させる減速手段と、前記発射装置に設けられ、前記糸状部材を切断する切断部とを備えたことを特徴とする。

【0009】

ここで、糸状部材とは、釣り糸などの糸は勿論のこと、細い針金、極細の鎖、ビニル繊維など、前述の糸付き球ゴトに使用可能な細長くてしなやかな部材は全て含まれる。また、固定とは、接着や溶接により糸状部材を遊技球に固着した態様に限らない。例えば、糸状部材が鎖である場合には、遊技球に鉤状の部材が突設されており、この鉤状の部材に鎖の一端を引っ掛けることも「固定」というものとする。また、係止手段がファール球通路に形成されているとは、ファール球通路の一部が係止手段になっている態様に限らない。例えば、係止手段という別構成をファール球通路に設けても良い（減速手段も同様）。

【0010】

また減速手段が「係止手段よりも、前記ファール球通路において下流位置に形成され」とは、「減速手段が、少なくとも係止手段よりもファール球通路において下流位置に形成されている」という意味であり、該下流位置に減速手段が形成されていれば、その他の箇所（例えば、ファール球通路において係止手段よりも上流位置や、係止手段とほぼ同じ位置）に減速手段が形成されていてもよい。また、減速手段は、前記下流位置のどこか一部（ただしファール球の流下速度を減速できる位置）に形成されていればよく、該下流位置の全域にわたって形成されている必要はない。

【0011】

また請求項1に記載の本発明は、前記ファール球通路は、該ファール球通路に着脱自在な箇所を備え、該箇所を取り外すことにより、前記係止手段から前記減速手段までの経路を露出させることが可能となっていることを特徴とする。

【0012】

ここで、着脱自在とは、前記箇所をファール球通路から完全に取り外し可能になっている態様に限らない。例えば、ファール球通路がチューブ状の部材で、係止手段が形成された箇所および減速手段が形成された箇所のみが窓状に開放しており、該窓が開閉自在になっており、閉鎖するとファール球がファール球通路を漏れることなく流下し、開放すると係止手段や減速手段が現れ出る態様も含まれる。この場合、係止手段や減速手段を露出さ

10

20

30

40

50

せる際に窓を完全に取り外さない（例えば扉状に回動させる、或いは引き戸のようにスライドさせる）態様も考えられるが、この態様も「取り外し可能」に含まれるものとする。あるいは、ファール球通路が箱状のユニット内に形成されており（後述する実施例に登場するファールカバー４５はその一例）、該ユニットの前面（「前」は遊技中の遊技者がいる方向）の一部または全体が取り外し可能になっており、該前面の一部または全体を取り外すことにより係止手段や減速手段が露出する態様も含まれる。また「前記係止手段および前記減速手段を露出させることが可能」とは、双方を露出させようと思えば可能」という意味であり、例えば係止手段用の前記窓と、減速手段用の前記窓とがそれぞれ存在し、これら窓の片方のみを開放することにより、該窓に対応する手段（係止手段または減速手段）のみを露出可能な構成も含まれる（双方を開放すれば係止手段および減速手段を露出させることが可能）。着脱自在にする態様としては、螺子止め、フック状の部材による係合、ピンなどによる仮止め、磁力による吸着、前記窓の開閉、これらの組み合わせなどを挙げることができる。

【発明の効果】

【００１４】

請求項１に記載の弾球遊技機においては、ファール球通路に係止手段が形成されている。ファール球通路はファール球が流下する通路である。発射力が不足して遊技領域に到達できなかった遊技球（ファール球）は、発射の際に走行した通路を逆流して発射装置に戻ると考えられる。しかし、発射装置にファール球が戻ると、次の遊技球を発射する妨げになる可能性が大きいため、ファール球通路は発射装置を経由することなく、ファール球を遊技者に返却するための通路となっている。なお、ファール球の返却態様としては、前記皿部に戻すものや、該皿部とは別途設けられている皿に戻すものなど弾球遊技機の構成により異なる。ファール球に係状部材が固定されている場合、該係状部材はファール球（ここでは係付き球）とともにファール球通路を流下して、遊技者（不正行為者）に返却されることになる。

【００１５】

ここで不正行為者が返却された係状部材または係付き球を引っ張ると、係状部材が係止手段に引っかかり、引けなくなる。従って、ファール球通路を用いた係付き球ゴトを防止することができる。更に、ファール球通路において係止手段よりも下流位置には、減速手段が形成されており、これにて、ファール球（係付き球を含む）はその流下が減速される。該減速と係止手段に係状部材が引っかかることにより、ファール球通路内で係付き球が滞る可能性がある。この場合も、不正行為者は糸を引くことができないので係付き球ゴトを防止することができる。また、係止手段を発射装置や遊技球通路に形成していないので、皿部の遊技球が発射装置に供給されるのを係止手段が妨げたり、係止手段のために発射装置の発射動作が滞ったりすることがない。

【００１６】

請求項１に記載の弾球遊技機においては、少なくとも係止手段が形成された箇所、および減速手段が形成された箇所が着脱自在に構成されている。そして該箇所を取り外す（前記窓状部材の場合は「開放する」）ことにより、係止手段や減速手段を露出させることが可能となっている。従って、係付き球ゴトが行なわれた際には、前記箇所を取り外すことにより、係状部材に係止手段から取り外したり、減速手段により流れが滞った係付き球を取り除いたりすることが容易にできる。

【図面の簡単な説明】

【００１８】

【図１】本発明のパチンコ機５０の正面図

【図２】パチンコ機５０から前枠５２を取り外した様子を示す正面図

【図３】パチンコ機５０の遊技盤１の正面図

【図４】パチンコ機５０の背面図

【図５】パチンコ機５０の電気構成図

【図６】上皿５５の遊技球１５が発射装置１９に供給される様子を示す説明図

10

20

30

40

50

【図 7】発射ハンドル 6 4 の説明図

【図 8】ファールカバー 4 5 の説明図

【図 9】ファールカバー 4 5 内を流れるファール球の説明図および系 7 7 が係止部 9 4 に引っかかった様子を示す説明図

【図 1 0】係止部 9 4 の説明図

【図 1 1】発射装置 1 9 の外観図

【図 1 2】カッター 9 7 の説明図および系 7 7 がカッター 9 7 に引っかかった様子を示す説明図

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 9 】

以下に本発明の好適な実施形態について説明する。尚、本発明の実施の形態は下記の実施例に何ら限定されるものではなく、本発明の技術的範囲に属する種々の形態を採ることができ、各実施例に記載された内容を適宜組み合わせることが可能なことはいうまでもない。

【 0 0 2 0 】

図 1 に示すように、弾球遊技機的一种であるパチンコ機 5 0 は、縦長の固定外郭保持枠をなす外枠 5 1 にて構成の各部を保持する構造である。外枠 5 1 の左側上下には、ヒンジ 5 3 が設けられており、該ヒンジ 5 3 の他方側には図 4 に記載する内枠 7 0 が取り付けられており、内枠 7 0 は外枠 5 1 に対して開閉可能な構成になっている。前枠 5 2 には、板ガラス 6 1 が取り外し自在に設けられており、板ガラス 6 1 の奥には図 3 に記載する遊技盤 1 が内枠 7 0 に取り付けられている。

【 0 0 2 1 】

前枠 5 2 の上側左右に設けられているのは、スピーカ 6 6 であり、パチンコ機 5 0 から発生する遊技音が出力され、遊技者の趣向性を向上させる。また、遊技者の趣向性を向上させるために前枠 5 2 に遊技状態に応じて発光する枠側装飾ランプ 6 5 も複数設けられている。前枠 5 2 の下方には、上皿 5 5 と下皿 6 3 が一体に形成されている。下皿 6 3 の右側には発射ハンドル 6 4 が取り付けられており、発射ハンドル 6 4 を時計回りに回動操作することによって発射装置（後述）が稼働して、上皿 5 5 から供給された遊技球が遊技盤 1 に向けて発射される。なお、発射ハンドル 6 4 の左側にもスピーカ 6 6 が設けられている。

【 0 0 2 2 】

上皿 5 5 の上部ほぼ中央には、遊技者が操作可能な演出ボタン 6 7 が備えられており、この演出ボタン 6 7 は、周囲にジョグダイヤル 6 8 を備えたものとなっている。遊技者が所定期間中に、演出ボタン 6 7 やジョグダイヤル 6 8 を操作することで後述する演出図柄表示装置 6 に表示される内容が変化したり、スピーカ 6 6 より出力される遊技音に変化したりする。また、このパチンコ機 5 0 はいわゆる C R 機であって、プリペイドカードの読み書き等を行うためのプリペイドカードユニット（C R ユニット）5 6 が付属しており、パチンコ機 5 0 には、球貸スイッチ 5 7、精算スイッチ 5 8 及び残高表示器 5 9 を有する C R 精算表示装置が備わっている。

【 0 0 2 3 】

図 2 は、前枠 5 2 を取り外した様子を示す正面図である。なお入賞口や釘、演出用の可動物は省略している。図 2 に示すように遊技盤 1 には、公知のガイドレール 2 a、2 b によって囲まれた略円形の遊技領域 3 が設けられている。発射装置 1 9 は遊技盤 1 の右下に配置されており、発射された遊技球はファールカバー 4 5 の内部を通過してガイドレール 2 a、2 b 間を走行し、遊技領域 3 に至る。ファールカバー 4 5 とは、ファール球を下皿 6 3 に誘導するための通路を有する部材であり、発射された遊技球はその一部を通過して遊技領域 3 に到達する。また、賞球は上皿 5 5 に供給されるが、上皿 5 5 が遊技球で満杯で溢れた遊技球（溢れ球）も、ファールカバー 4 5 の内部を通過して下皿 6 3 に誘導される（後述）。なお、下皿 6 3 にファール球や溢れ球が流れ出る出口は、下皿 6 3 の左奥方に設けられている。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 4 】

図 3 に、遊技盤 1 の詳細を示す。なお、このパチンコ機の全体的な構成は公知技術に従っているので図示及び説明は省略する。図 3 に示すように遊技盤 1 には、公知のガイドレール 2 a、2 b によって囲まれた略円形の遊技領域 3 が設けられている。この遊技領域 3 には多数の遊技釘 4 が打ち付けられている。

【 0 0 2 5 】

遊技領域 3 のほぼ中央部には、センターケース 5 が配されている。センターケース 5 は、公知のものと同様に、ワープ入口、ワープ通路、ステージ、演出図柄表示装置 6（液晶表示装置であり擬似図柄を表示する。）の画面を臨ませる窓等を備えている。センターケース 5 の下には、第 1 始動口 1 1 と第 2 始動口 1 2 とがユニット化された複合入賞装置が配置されている。第 2 始動口 1 2 は開閉可能な翼片を供えた普通電動役物を備えており、この翼片が開放しないと遊技球は第 2 始動口 1 2 に入球できない構成となっている。遊技領域の右下部には、複数個の LED からなる普通図柄表示装置 7 と、普通図柄保留数表示装置 8 と、特別図柄保留数表示装置 1 8 と、7 セグメント表示装置からなる特別図柄表示装置 9 とが配置されている。なお、前記翼片は、普通図柄表示装置 7 に特定の普通図柄が表示される（「普通図柄が当る」ともいう）と開放される。普通図柄は、演出図柄表示装置 6 の左方に設けられたゲート 1 7 を遊技球が通過すると変動が開始され、所定時間経過後に停止される。この変動時間および停止される普通図柄は、ゲート通過を契機として抽出された乱数に基づいて決定され、ゲート 1 7 を遊技球が通過した際に普通図柄が変動中などの場合により、普通図柄の変動を開始できない場合には、これらの乱数が記憶され、その個数が普通図柄保留数表示装置 8 に表示される。

【 0 0 2 6 】

複合入賞装置の下方にはアタッカー式の大入賞口 1 4 が配置されている。また、第 1 始動口 1 1 の左方には、第 1 左入賞口 3 1、第 2 左入賞口 3 2、第 3 左入賞口 3 3 及び第 4 左入賞口 3 4 が設けられている。なお、この第 1 左入賞口 3 1、第 2 左入賞口 3 2、第 3 左入賞口 3 3、第 4 左入賞口 3 4 が、常時、入球率が変化しない普通入賞口である。

【 0 0 2 7 】

パチンコ遊技機 5 0 の裏面は図 4 に示すとおり、前述した遊技盤 1 を脱着可能に取り付ける内枠 7 0 が前述した外枠 5 1 に収納されている。この内枠 7 0 には、上方から、球タンク 7 1、タンクレール 7 2 及び払出装置 7 3 が設けられている。この構成により、遊技盤 1 上の入賞口に遊技球の入賞があれば球タンク 7 1 からタンクレール 7 2 を介して所定個数の遊技球を払出装置 7 3 により前述した上皿 5 5 に排出することができる。また、パチンコ機 5 0 の裏側には（図 5 も参照のこと）、主制御装置 8 0、払出制御装置 8 1、演出図柄制御装置 8 2、サブ統合制御装置 8 3、発射制御装置 8 4、電源基板 8 5 が設けられている。なお、演出図柄制御装置 8 2、サブ統合制御装置 8 3 がサブ制御装置に該当する。

【 0 0 2 8 】

主制御装置 8 0、演出図柄制御装置 8 2、サブ統合制御装置 8 3 は遊技盤 1 に設けられており、払出制御装置 8 1、発射制御装置 8 4、電源基板 8 5 が内枠 7 0 に設けられている。なお、図 4 では、発射制御装置 8 4 が描かれていないが、発射制御装置 8 4 は払出制御装置 8 1 の下に設けられている。また、球タンク 7 1 の右側には、外部接続端子板 7 8 が設けられており、この外部接続端子板 7 8 より、遊技状態や遊技結果を示す信号が図示しないホールコンピュータに送られる。

【 0 0 2 9 】

このパチンコ機 5 0 の電氣的構成は、図 5 のブロック図に示すとおり、主制御装置 8 0 を中心にして構成されている。なお、このブロック図には、単に信号を中継するためのいわゆる中継基板及び電源回路等は記載していない。また、詳細の図示は省略するが、主制御装置 8 0、払出制御装置 8 1、演出図柄制御装置 8 2、サブ統合制御装置 8 3 のいずれも CPU、ROM、RAM、入力ポート、出力ポート等を備えているが、本実施例では発射制御装置 8 4 には CPU、ROM、RAM は設けられていない。しかし、これに

限るわけではなく、発射制御装置 8 4 に CPU、ROM、RAM等を設けてもよい。

【0030】

主制御装置 8 0 には、第 1 始動口 1 1 に入球した遊技球を検出する第 1 始動口スイッチ 1 1 a、第 2 始動口 1 2 に入球した遊技球を検出する第 2 始動口スイッチ 1 2 a、ゲート 1 7 に進入した遊技球を検出する普通図柄作動スイッチ 1 7 a、大入賞口 1 4 に入球した遊技球を計数するための第 1 カウントスイッチ 1 4 a、第 1 左入賞口 3 1、第 2 左入賞口 3 2、第 3 左入賞口 3 3、及び第 4 左入賞口 3 4 に入球した遊技球を検出する左入賞口スイッチ 3 1 a 等の検出信号が入力される。

【0031】

主制御装置 8 0 は搭載しているプログラムに従って動作して、上述の検出信号などに基づいて遊技の進行に関わる各種のコマンドを生成して払出制御装置 8 1 及びサブ統合制御装置 8 3 に出力する。

また主制御装置 8 0 は、図柄表示装置中継端子板 9 0 を介して接続されている特別図柄表示装置 9 及び普通図柄表示装置 7 の表示、特別図柄保留数表示装置 1 8、及び普通図柄保留数表示装置 8 の点灯を制御する。

【0032】

更に、主制御装置 8 0 は、大入賞口ソレノイド 1 4 b を制御することで大入賞口 1 4 の開閉を制御し、普通電動役物ソレノイド（図 5 では普電動役物ソレノイドと表記）1 2 b を制御することで第 2 始動口 1 2 の開閉を制御する。主制御装置 8 0 からの出力信号は試験信号端子にも出力される他、図柄変動や大当たり（特別遊技ともいう）等の管理用の信号が、裏中継端子板 7 5、払出制御装置 8 1 および外部接続端子板 7 8 を介してホールコンピュータ 8 7 に送られる。主制御装置 8 0 と払出制御装置 8 1 とは双方向通信が可能である。

【0033】

払出制御装置 8 1 は、主制御装置 8 0 から送られてくるコマンドに応じて払出モータ 2 0 を稼働させて賞球を払い出させる。本実施例においては、賞球として払い出される遊技球を計数するための払出センサ 2 1 の検出信号は払出制御装置 8 1 に入力され、払出制御装置 8 1 で賞球の計数が行われる構成を用いる。この他にも主制御装置 8 0 と払出制御装置 8 1 に払出センサ 2 1 の検出信号が入力され、主制御装置 8 0 と払出制御装置 8 1 の双方で賞球の計数を行う構成を用いることも考えられる。

【0034】

なお、払出制御装置 8 1 はガラス枠開放スイッチ 3 5、内枠開放スイッチ 3 6、満杯スイッチ 2 2、球切れスイッチ 2 3 からの信号が入力され、満杯スイッチ 2 2 により下皿 6 3 が満タンであることを示す信号が入力された場合及び球切れスイッチ 2 3 により球タンクに遊技球が少ないあるいは無いことを示す信号が入力されると払出モータ 2 0 を停止させ、賞球の払出動作を停止させる。なお、満杯スイッチ 2 2、球切れスイッチ 2 3 も、その状態が解消されるまで信号を出力し続ける構成になっており、払出制御装置 8 1 は、その信号が出力されなくなることに起因して払出モータ 2 0 の駆動を再開させる。

【0035】

また、払出制御装置 8 1 は CR ユニット端子板 2 4 を介して CR ユニット 5 6 と通信することで払出モータ 2 0 を作動させ、貸し球を排出する。払出された貸し球は払出スイッチ 2 1 に検出され、検出信号は払出制御装置 8 1 に入力される。なお、CR ユニット端子板 2 4 は精算表示装置 2 5 とともに双方向通信可能に接続されており、精算表示装置 2 5 には、遊技球の貸出しを要求するための球貸スイッチ 5 7、精算を要求するための精算スイッチ 5 8、残高表示器 5 9（図 1 参照）が接続されている。

【0036】

また、払出制御装置 8 1 は、外部接続端子板 7 8 を介して賞球に関する情報、枠（内枠、前枠）の開閉状態を示す情報などをホールコンピュータ 8 7 に送信するほか、発射制御装置 8 4 に対して発射停止信号を送信する。

【0037】

10

20

30

40

50

発射制御装置 8 4 は発射ソレノイド 3 0 を制御して、遊技球を遊技領域 3 に遊技球を発射させる。また、発射制御装置 8 4 は球送りソレノイド 4 1 を制御して、発射台（後述）に 1 個ずつ遊技球を供給する。なお、発射制御装置 8 4 には払出制御装置 8 1 以外に発射ハンドル 6 4（図 1 参照）からの回動量信号、タッチスイッチ 2 8 からのタッチ信号、発射停止スイッチ 2 9 から発射停止信号が入力される。

【 0 0 3 8 】

回動量信号は、遊技者が発射ハンドル 6 4 を操作することで出力され、タッチ信号は遊技者が発射ハンドル 6 4 を触ることで出力され、発射停止スイッチ信号は、遊技者が発射停止スイッチ 2 9 を押すことで出力される。なお、タッチ信号が発射制御装置 8 4 に入力されていなければ、遊技球は発射できないほか、発射停止スイッチ信号が入力されているときには、遊技者が発射ハンドル 6 4 を触っていても遊技球は発射できないようになっている。

10

【 0 0 3 9 】

サブ統合制御装置 8 3 はサブ制御装置に該当し、主制御装置 8 0 から送信されてくるデータ及びコマンドを受信し、それらを演出表示制御用、音制御用及びランプ制御用のデータに振り分けて、演出表示制御用のコマンド等は演出図柄制御装置 8 2 に送信し、音制御用及びランプ制御用は自身に含まれている各制御部位（音声制御装置及びランプ制御装置としての機能部）に分配する。そして、音声制御装置としての機能部は、音声制御用のデータに基づいて音 L S I を作動させることによってスピーカ 6 6 からの音声出力を制御し、ランプ制御装置としての機能部はランプ制御用のデータに基づいてランプドライバを作動させることによって各種 L E D、ランプ 2 6 を制御する。また、サブ統合制御装置 8 3 には、演出ボタン 6 7、ジョグダイヤル 6 8 が接続されており、遊技者がこれら 6 7、6 8 を操作した際には、その信号がサブ統合制御装置 8 3 に入力される。

20

【 0 0 4 0 】

サブ統合制御装置 8 3 と演出図柄制御装置 8 2 とは双方向通信が可能である。

演出図柄制御装置 8 2 は、サブ統合制御装置 8 3 から受信したデータ及びコマンド（共に主制御装置 8 0 から送信されてきたものとサブ統合制御装置 8 3 が生成したものとがある）に基づいて演出図柄表示装置 6 を制御して、擬似図柄等の演出画像を演出図柄表示装置 6 の画面 6 a に表示させる。

【 0 0 4 1 】

30

上皿 5 5 の遊技球が発射装置に供給される様子を図 6 に示す。図 6（a）は上皿 5 5 を上方から見た図である。上皿 5 5 にあった遊技球 1 5 は、上皿 5 5 の底面中ほどから右方手前に流れ、左折して奥方向（本図では上方）に流れ、更に左折して流入口 5 5 a から上皿 5 5 の底面の下方（本図では奥方向）に誘導される。図 6（b）はパチンコ機 5 0 を一部断面にして、上皿 5 5 の右方から見た図である。図 6（a）のように誘導された遊技球 1 5 は、上皿 5 5 の奥方向（本図では右方）に設けられた発射装置 1 9 に入り、発射ハンドル 6 4（図 1 などを参照）が操作されると、1 個ずつ遊技領域 3 に発射される。

【 0 0 4 2 】

発射ハンドル 6 4 の説明図を図 7 に示す。図 7（a）は発射レバー 3 7 が回動されていない状態、図 7（b）は発射レバー 3 7 が回動された状態を示す。発射ハンドル 6 4 は、パチンコ機 5 0 に対して固定されたドーム状のタッチ部 3 8 の周りに発射レバー 3 7 が回動可能に設けられている。発射レバー 3 7 にはリブ 3 9（通常はタッチ部 3 8 に覆われていて見えない）が設けられており、図 7（a）に示す発射レバー 3 7 が回動されていない状態では、リブ 3 9 が発射停止ボタン 4 0 を押さえている。これにより発射停止スイッチ 2 9 が ON 状態、すなわち遊技球 1 5 の発射が行なわれない状態となっている。発射レバー 3 7 が回動されると、リブ 3 9 が発射停止ボタン 4 0 から離れ、発射停止スイッチ 2 9 が OFF 状態となり、発射ソレノイド 3 0、及び球送りソレノイド 4 1 が作動を開始する。

40

【 0 0 4 3 】

ファールカバー 4 5 の外観を図 8 に示す。図 8（a）はファールカバー 4 5 を図 2 のや

50

や右上から見た様子を示す斜視図である。ファールカバー 45 は透明の合成樹脂製の部材であり、その前面 42 はピン 76 を引っ張ることにより着脱自在に構成されている。なお、前面 42 の部位 42 a および 42 b にはフック（図示しない）が形成されており、図 8（b）に示す穴 42 c および 42 d にそれぞれ係止することにより前面 42 の上側を仮固定する。ファールカバー 45 の上面および右面にはそれぞれ開口 74 a および 74 b が形成されている。なお、符号 91 はファール球や溢れ球が下皿 63 に流れ出るための流出口である。図 8（b）は、ファールカバー 45 から前面 42 を取り外した様子を示す斜視図である。矢印 A は図示しない発射装置 19 から発射された遊技球の軌跡を示すもので、本図に示すように発射装置 19 から発射された遊技球は、開口部 74 b からファールカバー 45 内に入り、開口部 74 a から斜めに遊技盤 1 に向かって発射される。矢印 B は溢れ球が流れる経路を示すものである。なお、本図に示した経路は一例であり、溢れ球の数や勢いにより経路は多少変化する。

【0044】

図 9（a）に、ファールカバー 45 内のファール球の流れ（矢印 C）を示す。この流れも一例であり、ファール球の勢いにより多少変化する。本図に示すように、ファール球は開口部 74 a からファールカバー 45 内に入り、斜面 93 を滑り落ちて、下面 43 a に着地する。そこから向きを変えて略長方形の孔 92 から奥の面 43 b へと流れる。なお、本図は前面 42（図 8（a）参照）を除いて示しているが、実際には前面 42 が取り付けられた状態でファール球は流下するので、ファール球が手前（遊技者方向）へ脱落することはない。孔 92 に入ったファール球は、奥の面 43 b を蛇行して手前に転動し、再び奥方向へと流れて流出口 91 から流れ出る。なお、符号 94 はファール球に係が付いていた場合に、この係を引っ掛けるための係止手段である。図 8（b）ではファールカバー 45 の形状を示すことを優先するために、ファールカバー 45 を不透明と仮定し、係止部 94 を示さなかったが、本図ではファールカバー 45 が実際には透明であるため、係止部 94 を示している。

【0045】

係止部 94 の拡大図を図 10 に示す。図 10（a）は係止部 94 を遊技機の上方から見た図、図 10（b）は係止部 94 を遊技機の正面から見た図、図 10（c）は係止部 94 を遊技機の右方から見た図である。係止部 94 は、板金に切込み線 95 a を形成し、該切込み線 95 a から所定の角度をなす折り曲げ線 95 b に従って曲げ起こされてなる舌片 95 を備えた部材である。切込み線 95 a だった部位が係付き球の係 77 を引っ掛ける箇所となる（図 10（c）参照）。係止部 94 を正面から見て左の部位は L 字型に曲げ起こされることにより、取り付け部 94 c が形成されている。取り付け部 94 c には大小 2 個の孔 96 a、96 b が形成されており、これを用いてファールカバー 45 に螺子止めされる。舌片 95 は図 10（a）および図 10（c）に示すように、ファール球の流下方向 D と逆方向に曲げ起こされている（符号 C₂ については後述）。

【0046】

図 9 に戻る。ファール球の通路を上から見た様子を図 9（b）に示す。ファール球は、斜面 93 を滑り落ちて（符号 C₁）、ファールカバー 45 の奥（本図では上）の面 43 b を U ターンするように流れ（C₂）、ファールカバー 45 の前部（本図では下部）で再び U ターンをするように流れ（C₃）、再度、ファールカバー 45 の奥へと向かう。そしてみたび奥で U ターンし（C₄）、流出口 91 から流れ出る（C₅）。なお、このように遊技球が流下するようにファール球の通路の下面には、遊技機の正面から見て左下がりの傾斜がつけられている。特に、下面 43 a、奥の面 43 b には凹凸が形成されている。図 9（c）は面 43 b の拡大図、図 9（d）は図 9（c）の側面図であり、面 43 b の表面にダイヤ型の突起 44 が多数形成されている。下面 43 a も、面 43 b と同様に突起 44 が形成されている（ただし突起 44 の配列の向きが異なる）。このような下面 43 a、面 43 b をファール球が流下すると、ファール球の流下速度が減速される。なお、図 8（b）、図 9（a）、および後述する図 9（c）では、図を分かり易くするために突起 44 を省略している。また、溢れ球との合流地点は流出口 91 の近傍となり、係止部 94 は合流地

点よりもファール球の通路の上流に設けられていることになる。

【 0 0 4 7 】

ファール球が糸付き球だった場合、糸 7 7 は図 9 (e) のようになる。なお、前述したように糸 7 7 の他端にも遊技球が付いており、該他端の遊技球は遊技領域 3 にある。なお、実際には図 9 (b) に示したようにファール球はファールカバー 4 5 内を蛇行して流下するので、糸 7 7 もファールカバー内を蛇行することになるが、図が煩雑になる為、模式的に示している。例えば、ファール球は下皿 6 3 の左側 (図 1 参照) から流れ出るので、糸 7 7 (又は糸付き球) は実際には右方向へ引っ張られることになる。開口部 7 4 a からファールカバー 4 5 内に入った糸付き球は、孔 9 2 に入り、ファールカバー 4 5 内を図 9 (b) のように流下して、流出口 9 1 から下皿 6 3 に流れ出る。不正行為者が下皿 6 3 に出てきた糸付き球 (又はそれに付けられた糸 7 7) を引っ張ると、糸 7 7 の他端は遊技領域 3 にあるため、糸の他端が上方に引っ張られる形となり、糸 7 7 は係止部 9 4 の舌片 9 5 と本体 9 4 a の間に入り込む。この状態から、なおも不正行為者が糸 7 7 を引っ張ると、糸 7 7 は舌片 9 5 と本体 9 4 a の間にどんどん食い込んでいき、引くのが困難になる。従って、糸付き球ゴトを防止することができる。

10

【 0 0 4 8 】

なお、ファールカバー 4 5 の下面 4 3 a および奥の面 4 3 b には、突起 4 4 が多数形成されているので、糸付き球はその流下が減速される。特に、係止部 9 4 よりも下流位置にある奥の面 4 3 b の突起 4 4 による減速と係止部 9 4 に糸 7 7 が引っかかることにより、糸付き球はファール球の通路内で滞り、流出口 9 1 から出てこない可能性もある。この場合も、不正行為者は糸 7 7 を引くことができないので糸付き球ゴトを防止することができる。そして、係止部 9 4 を発射装置 1 9 に設けていないので、係止部 9 4 のために発射装置 1 9 の発射動作が滞ることがない。また、上皿 5 5 の流入口 5 5 a から発射装置 1 9 に至る流路に係止部 9 4 を設けていないので、上皿 5 5 の遊技球 1 5 が発射装置 1 9 に供給されるのを係止部 9 4 が妨げることもない。

20

【 0 0 4 9 】

また、ファールカバー 4 5 の前面 4 2 が着脱自在となっているので、前面 4 2 を取り外せば、係止部 9 4 に引っ掛かった糸 7 7 や、突起 4 4 が形成された箇所滞った糸付き球を、容易に取り除くことができる。そして、係止部 9 4 および突起 4 4 は、溢れ球とファール球の合流地点よりもファール球通路の上流に設けられているので、大量の溢れ球が発生した際にも球詰まりが発生しにくい。

30

【 0 0 5 0 】

なお、このように糸付き球をファール球にすることにより行われる不正行為だけでなく、旧来からの糸付き球ゴトも防止可能にパチンコ機 5 0 は構成されている。これについて図 1 1 ~ 1 2 を用いて説明する。図 1 1 は、発射装置 1 9 の外観である。図 1 1 (a) は発射装置 1 9 をパチンコ機 5 0 の正面側から見た図である。発射装置 1 9 は大きく分けて 2 つの部位から構成されており、その一方は上皿 5 5 から供給された遊技球を 1 個ずつ発射レール 4 7 へと送り込む球送り機構であり、他方は球送り機構により発射レール 4 7 に設置された遊技球を遊技領域 3 に発射する発射機構である。両者は図 1 1 (b) の斜視図に示すように、ヒンジにより開閉可能に構成されている。球送りソレノイド 4 1 は、図示しない球送りレバーを駆動するもので、発射制御装置 8 4 からの指令により稼働すると、上皿 5 5 から導入口 4 8 を介して入ってきた遊技球を球排出口 4 9 を介して 1 個ずつ発射レール 4 7 へと供給する。なお、球排出口 4 9 の近傍にはカッター 9 7 が設置されている。

40

【 0 0 5 1 】

発射レール 4 7 に設置された遊技球は、ハンマー 4 6 により打撃されて遊技領域 3 に発射される。ハンマー 4 6 は P を軸として揺動可能に構成されており、発射ソレノイド 3 0 により駆動されて、その先端部 4 6 a により発射レール 4 7 上の遊技球を打撃する。発射ソレノイド 3 0 は発射制御装置 8 4 からの指令により稼働する。

【 0 0 5 2 】

50

カッター 97 の拡大図を図 12 (a)、図 12 (b) に示す。図 12 (a) はカッター 97 を遊技機の右方から見た図、図 12 (b) はカッター 97 を遊技機の正面から見た図である。カッター 97 は、係止部 94 と同様、板金を折り曲げることにより形成された部材で、その本体 97 a から曲げ起こされて形成された切断部 98 を備えている。本体 97 a には大小 2 個の孔 99 a , 99 b が形成されており、これを用いて球送り機構に螺子止めされる。

【 0053 】

発射装置 19 にて糸付き球を発射すると、糸 77 は図 12 (c) のようになる。なお、図 12 (c) は発射装置 19 をパチンコ機 50 の裏側から見ているので、発射方向が右斜め上方向となっている（ファールカバー 45 は図 12 (c) において右側に存在することになる）。そして糸の他端は球排出口 49 を通って導入口 48 から上皿 55 にある状態となる。不正行為者が糸 77 を引っ張ると、糸 77 の他端は遊技領域 3 にあるため、糸 77 がカッター 97 の切断部 98 と本体 97 a の間に入り込む。この状態から、なおも不正行為者が糸 77 を引っ張ると、糸 77 は切断部 98 にこすり付けられることになり、やがて切断される。従って、旧来の糸付き球ゴトも防止することができる。なお、図 12 (c) においても糸 77 の様子は模式的に示している。

【 0054 】

ここで本実施例の構成と、本発明の構成要件との対応関係を示す。上皿 55 が本発明の「皿部」に相当し、発射装置 19 が本発明の「発射装置」に相当し、流入口 55 a から発射装置 19 に至る流路が本発明の「遊技球通路」に相当し、発射ハンドル 64 が本発明の「発射力調整手段」に相当し、係止部 94 が本発明の「係止手段」に相当し、突起 44 が本発明の「減速手段」に相当し、図 7 に示した矢印 B に沿った通路が本発明の「溢れ球通路」に相当し、図 8 に示した矢印 C₁ ~ C₅ に沿った通路が本発明の「ファール球通路」に相当し、前面 42 が本発明の「着脱自在に構成され」た「箇所」に相当する。

【 他の実施例 】

【 0055 】

ファール球通路が遊技盤 1 内に形成されている遊技機に本発明を適用しても良い。また、係止部 94 は、図 10 に示したような構成である必要はない。例えば、ファール球通路内の、糸 77 が接触する部分に舌片 95 状のものを形成し、ここに糸 77 が引っかかるようにしても良い。或いは、ファール球通路は前記実施例の様に蛇行してファール球が流下するものではなく、螺旋状に流下する形状にすることも考えられる。こうすると、糸 77 も螺旋状にファール球通路内に存在することになるので、不正行為者が糸 77 を引っ張ると糸 77 が巻きつくことになり、引っ張ることも緩めることも困難となる。これはファール球通路のほぼ全体（正確にはその内側の面）を係止手段として機能させることになる。これらの態様では、係止部 94 も合成樹脂にて形成されることになる。尚、係止部 94 もファールカバー 45 も突起 44 も、前記実施例とは異なる形状、異なる材質にて構成しても構わない。前記実施例の対応する構成と同様の作用をする構成であればよい。特に減速手段に相当する構成としては、突起 44 のように盛り上がった構成ではなく、遊技球がはまり込まない程度の大きさの多数の穴でも構わない。また、平目ローレットのような直線状の凹凸にしてもよいし、更にこれが波打ったような形状にしてもよい。或いは、合成樹脂や金属といった比較的硬質のものではなく、布、スポンジ、毛皮といった軟質のものをを用いてファール球の流下速度を減じる構成でもよい。

【 0056 】

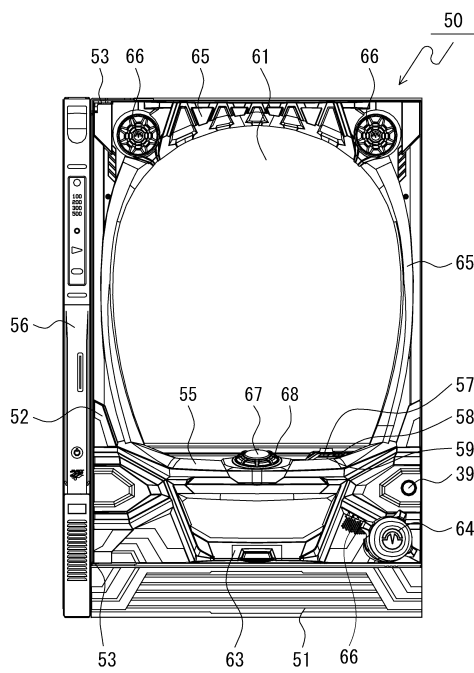
また、下皿 63 を有しない遊技機に本発明を適用しても良い。こうした遊技機では、ファール球や糸付き球は上皿 55 に返却される。また、演出図柄表示装置 6 を制御するサブ統合制御装置 83 は、スピーカ 66 や各種 LED、ランプ 26 をも制御するものとして構成されていたが、これらを個別に制御する複数のサブ制御装置として構成し直してもよい。

【 符号の説明 】

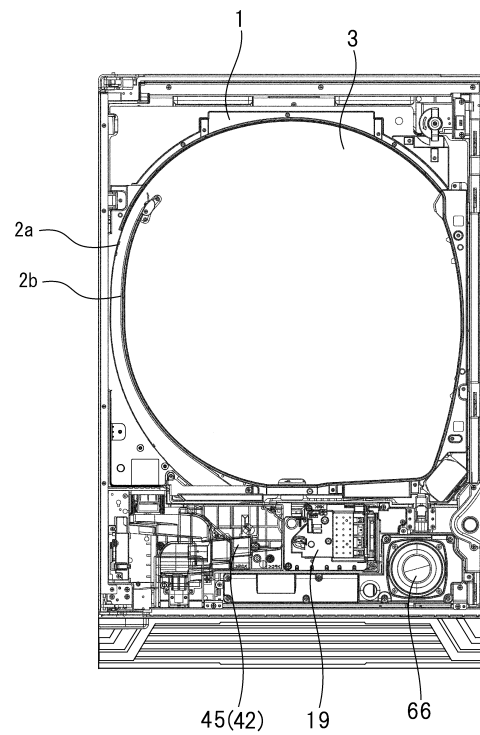
【 0057 】

- | | |
|---------------|------------|
| 1 : 遊技盤 | 3 : 遊技領域 |
| 19 : 発射装置 | 26 : ランプ |
| 41 : 球送りソレノイド | |
| 45 : ファールカバー | 46 : ハンマー |
| 47 : 発射レール | 48 : 導入口 |
| 49 : 球排出口 | 50 : パチンコ機 |
| 55 : 上皿 | 63 : 下皿 |
| 64 : 発射ハンドル | 77 : 糸 |
| 94 : 係止手段 | 97 : カッター |

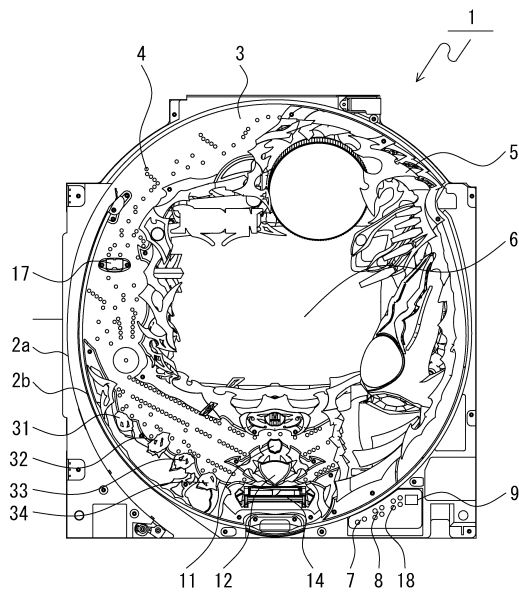
【図1】



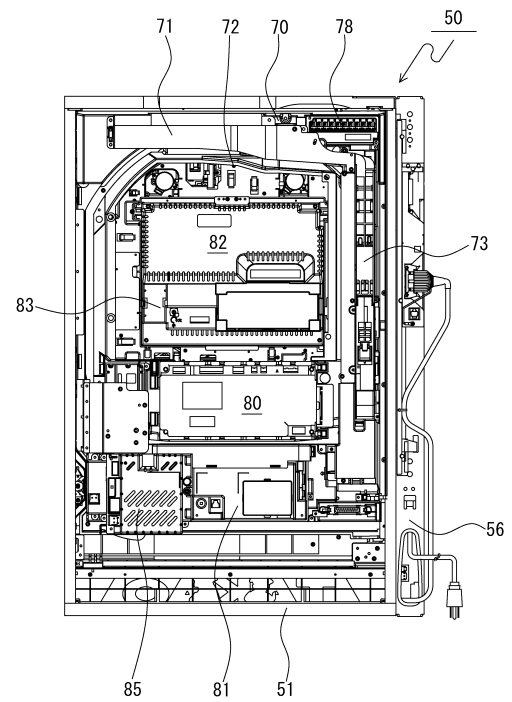
【図2】



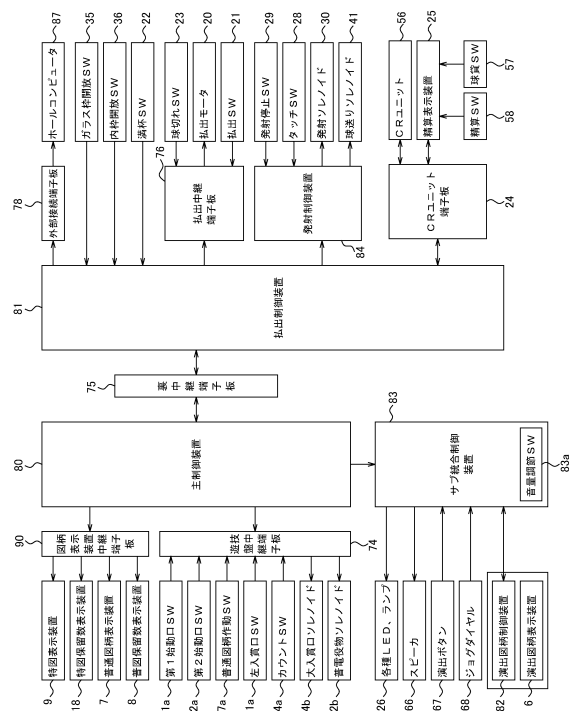
【図 3】



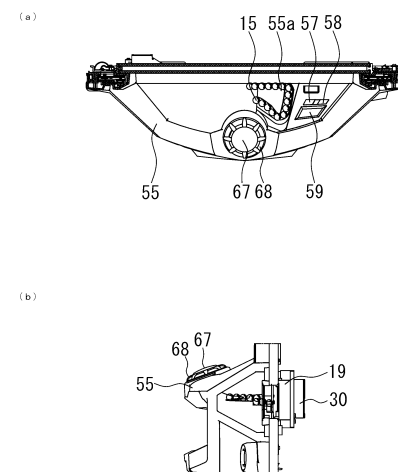
【図 4】



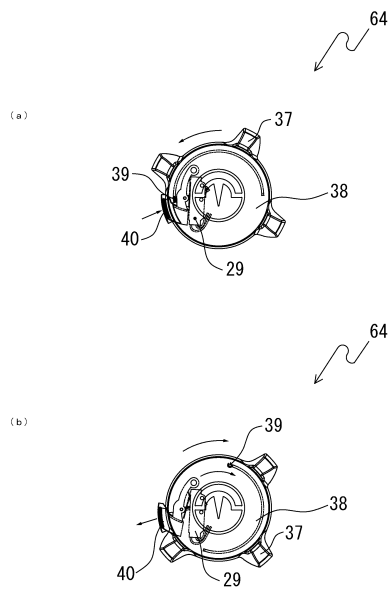
【図 5】



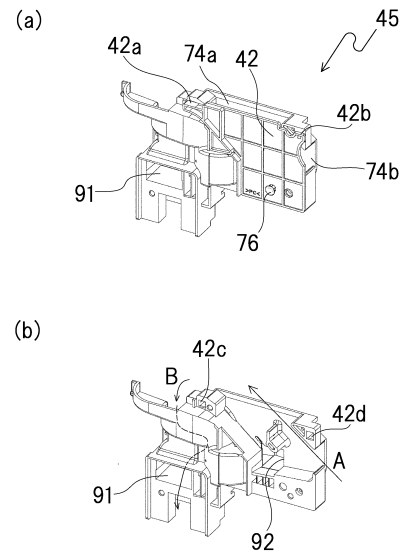
【図 6】



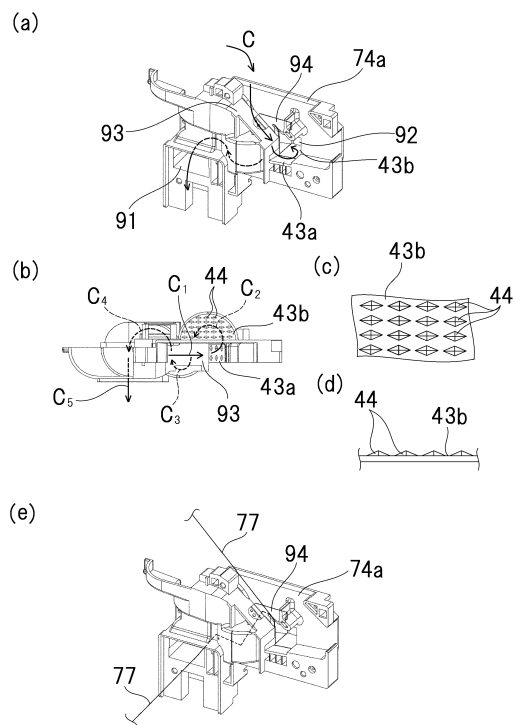
【図 7】



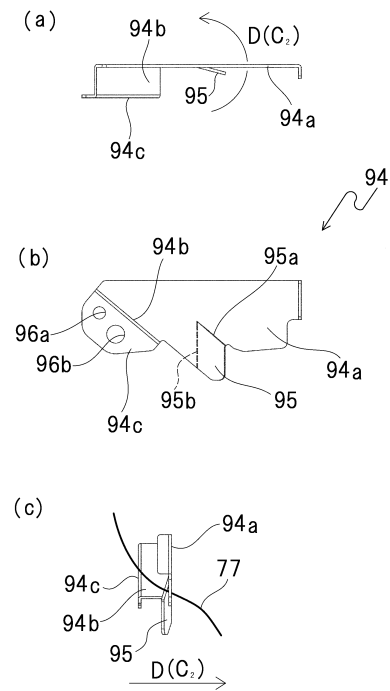
【図 8】



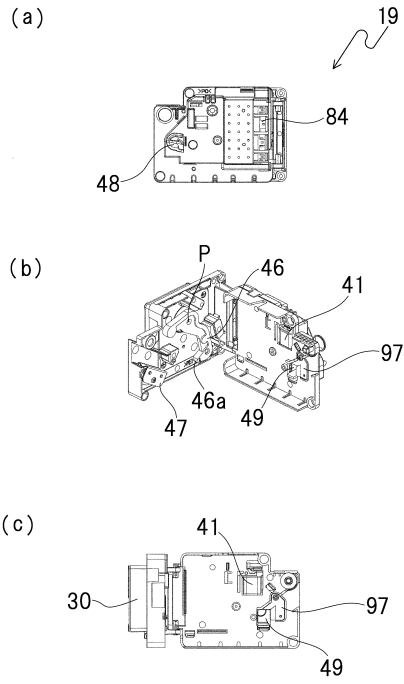
【図 9】



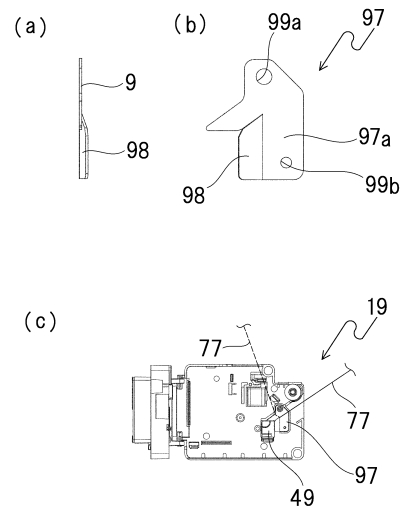
【図 10】



【図 11】



【図 12】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 6 3 F 7 / 0 2